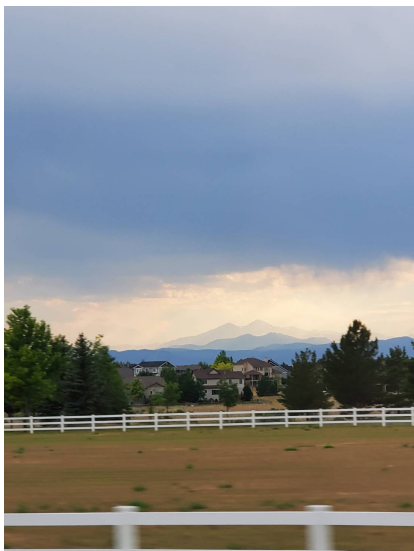

COLORADO

はじめに

アメリカに行くまでは、現地でどのようにして過ごすかなどが詳しく分からなかったり、英語できちんと会話ができるか心配だったりしましたが、滞在中はとても楽しい毎日を過ごすことができました。滞在している間は日々のストレスを忘れてしまうほどで、ホストファミリーが様々な所に連れていってくれて毎日が充実していました。ホストファミリーやその親戚など、多くの方々が私を温かく歓迎して下さいました。彼らには本当に感謝しかありません。そして人々の温かさに触れつつ、コロラドの大自然に感激し、景色に癒されながら過ごしました。また、2週間のホームステイ後のキャンプでは、様々な国の留学生と触れあい刺激を得ることができました。

コロラドでの滞在でどのようなことをしたのかや、思ったこと感じたことなどを紹介していきます。



出発する日、父と別れるまではこれから本当にアメリカに行くという実感が湧きませんでした。成田空港で高橋さんと会い二人で飛行機に搭乗するためのゲートを通った後、いよいよ旅が始まるという実感が湧いていきました。フライトは16時半の出発で、日本の午前3時頃、コロラドは15時間もの時差があるので現地時間午後12時の着陸でした。徹夜の状態での移動になるため、体調が悪くならないかと心配になりましたが、案の定お腹の調子が悪くなってしまい、着陸後はなんとか堪えて行動していました。ただし、困ったことはそれだけではありませんでした。問題が起きたのは、入国審査の際のことです。里桜さんはすぐ審査を終えられましたが、私は入国の目的を伝える際に「Study abroad」と言ってしまい、入国審査官の女性から、ビザを持っていないにも関わらず

「visa!」と強めに言われ、どうしたら良いか分からず慌ててしまいました。その後、日本人の女性のスタッフの方が来てく対応してくれました。スタッフの方は、留学の目的である場合は一年などの長期留学が基本だからビザの提示を求められてしまう、ただし数週間のような短期留学はグレーゾーンだと教えてくれました。アメリカに来て突然のハプニングでしたが、これも一つの学びになったと思います。そしてやっとのことで審査が完了すると、

「Welcome」と大きく書かれた紙を持ったオジャラさん一家が私を待っていていました。空港からオジャラさんの家までのドライブでは、自己紹介などを含めて色々お話をしました。

こうして2週間の日本語が使えないワクワク「英語サバイバル生活」がスタートしました。

到着後、
空港での写真



ここからは、2週間のホームステイ、5日間のユースキャンプでの発見や感じたことなどを一つずつ紹介していきます。

一週目の主なスケジュール

7/8 コストコへ買い物

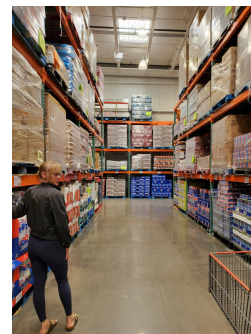
9 留学生とホストファミリーらとボウリング、オジャラさん家で留学生歓迎パーティー

10 地域のスタジアムで野球観戦

11 スーパーで買い物、留学生達とプール、ウィンザー湖でミニコンサート

12 フォートコリンズヘドライブ、買い物

13 Quinnの水泳大会



二週目の主なスケジュール

14 教会、ドライブ

15 SHEELS(スポーツ用品やアウトドア用品などを売るショッピングセンター)を訪れる

16 ゴルフ場で留学生と交流、キャンプファイヤー

17 留学生とピザ作り、Gavinのアメフトの練習見学

18 ウォーターワールド(ウォーターパーク)

19 ハイキング、フォートコリンズで寿司を食べる

20 エステスパーク(国立公園)



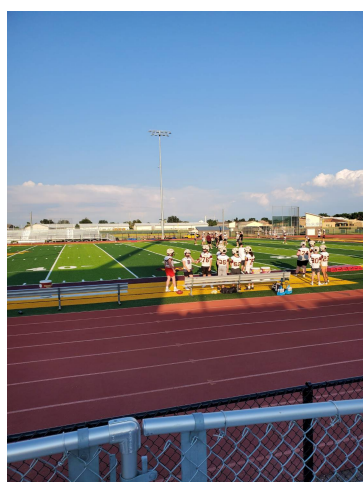
ユースキャンプの大体のスケジュール

1日目 湖でパドルボート、キャンプ場で作業、留学生プレゼン①

2日目 オリンピックミュージアム(コロラドスプリングス)、留学生プレゼン②

3日目 神々の庭(自然公園)、留学生プレゼン③

4日目 荷物整理、留学生との最後のゴルフ



ホストファミリーのOjalaさん一家です。

Rich (父)、Jenny(母)、Tamsen(17歳)、Gavin(16歳)、Quinn(13歳)

家族、親戚について

オジャラさん一家は、とても心が温かくて素敵でした。三姉弟がいる五人家族で、1番上は私の一つ年上のTamsen、2番目は私の一つ下のGavin、3番目は弟と同じ年齢のQuinnでした。オジャラさん一家は全員スポーツや運動好きです。父親のRichさんは若い頃アメフトをしていました。母親のJennyさんはよくジムに行くそうです。そしてTamsenはバスケットと陸上、Gavinはアメフト、Quinnは水泳とみんな得意なものが沢山ありました。また、オジャラさんの家には大きなトランポリンやバレーネットがあるので、よくトランポリンやバレーを楽しんだりすることができました。

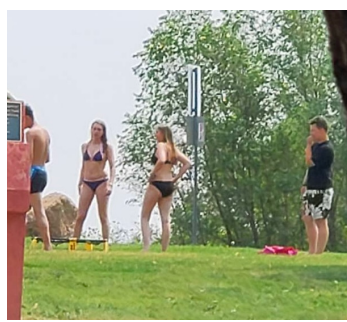
とりわけ三姉弟の中でも末っ子のQuinnが一番明るくて、私がいる間はずっと興奮している様子でした。彼は日本語に興味があるので、「梅干し」「人」「何が欲しいですか」などなど色んな言葉を教えてあげました。また、音楽が大好きな彼は車に乗るといつも好きな音楽をかけて歌うので、家族は「静かにして」と呆れた様子でした。人前では黙っている私の弟とは真逆のとても面白い性格の子でした。

滞在中、私はオジャラさん家の祖父母や親戚に会うことができました。お祖母さんは優しい人でお祖母さんの妹もそっくりな人でした。お祖父さんはとても大柄で威厳があり素敵な人でした。三姉弟のいとこ達も皆かわいかったです。また、驚いたことにJennyさんの妹の旦那さんは三年ほど青森県の米軍三沢基地にいたとのことでした。挨拶の際には皆お互いハグをしていて、理想的な家族だなと思いながら見ていました。

服装について

過ごしている季節は日本もアメリカも同じ夏でしたが、服装にも違いを感じました。特に女性の場合は、肌が露出した服を着ている人がやはり多かったです。日本の場合、夏でも日焼けを気にして腕を出さなかったり、恥じらいを感じてノンスリーブの服や胸元の開いた服を避けがちですが、アメリカではあまりそういった事は気にせず、ショートパンツやタンクトップ、キャミソールで過ごしている女性が多い様子でした。実際、私のホストマザーもほぼ毎日ショートパンツにタンクトップで過ごしていました。また、他の国の留学生もそのような服装をしていました。

また、プールに行った際には女性の場合はビキニの人が多かったです。特に留学生達とプールに行く機会が多かったのですが、フランスの子はビキニを着慣れている様子で、全く恥じず男子の前でも仁王立ちでした。日本人の私にとっては珍しい光景でした。



英語力の限界

英語での会話は何とかできてはいましたが、英語を話す力が足りていないと感じることは度々ありました。私達は学校の授業で英語を学びますが、基本的に読んだり書いたり試験のための勉強になりがちなので、英語で様々なことを話すという機会がありません。そのため、他の国の留学生との英語力の差を大きく感じました。このことは里桜さんも言っていました。留学生達との会話についていけず、留学生達は普段は自分達の母国語を話しているのに、どうしてこんなに流暢な英語が話せるのだろう、何で日本人だけ差が出てしまうのだろう、と何とも言えない悔しさが込み上げてくることもありました。特にその様な気持ちになったのは、ホストブラザーのGavinとQuinnとフランスの留学生の子とウォーターパークにいた時のことでした。フランスの子は私よりも何倍も英語が話せるので、彼女はずっとホストブラザーと話し続け、私は会話に入ることができなくなっていました。せっかく楽しい場所にいるにも関わらずうまく話せなかったことで、その日は少し悲しい気持ちになっていました。ただ、これも良い経験になったと捉えたいです。

車の運転について

運転に関しても、日本とアメリカでは大きく異なっていました。私は、アメリカの車の運転のことをきちんと知っていなかったため、現地に行ってホストファミリーの車に乗ってから、アメリカでは道路は右走行、運転席は左側であることに気づきました。特に、運転席と助手席が日本と逆になっているのが不思議でした。ある日、ホストマザーのJennyさんと出掛けようとして車に乗った際間違っって運転席側に座ろうとしたので、Jennyさんに思わず笑われてしまいました。

また、特に驚いたのはGavin、Tamsenが運転ができることです。アメリカは基本的に16歳から免許を取ることができます。そのため、Tamsenはいつも高校は自分で運転して通っているそうです。日本であれば、バスや電車で通学しなければいけないので、運転ができるならば便利だなと思う反面、早く運転免許を取って運転するのは少し不安かとも思いました。銃を所有することができたり、運転を始められる年齢が若かったりとアメリカは他の国よりも寛容な部分がある国だと思いました。



コロラドの自然や気候

コロラドは広大な自然に恵まれていてとても綺麗な場所でした。ロッキー山脈が南北に貫いているので、ドライブ中にはロッキー山脈の連なりを眺めることができました。調べてみると、コロラド州は州全体の標高がアメリカで一番高いそうです。気温はかなり高く35℃ぐらいあることも多かったですが、日本と違い湿潤気候ではないためいつも乾燥していて汗をかくことはあまりありませんでした。私がハイキングに行った時は、乾燥しているため土は赤土で背丈のある木はほとんど生えていませんでした。

コロラドの自然を見ながら洋楽を聞いてドライブする時間も良い思い出になりました。

留学生達

今回の留学生は主にイタリア、フランス、フィンランド、ドイツ、ハンガリーなどといったヨーロッパ系の人が多く、アジア人は日本とモンゴルだけでした。去年訪れたオーストラリアとは全く違いコロラドではほとんどアジア人が見当たらなかったのも、モンゴル人の留学生の存在が心強かったです。モンゴル人の留学生は「君」「ちゃん」「さま」「さん」の使い方を分かっていたので嬉しかったです。

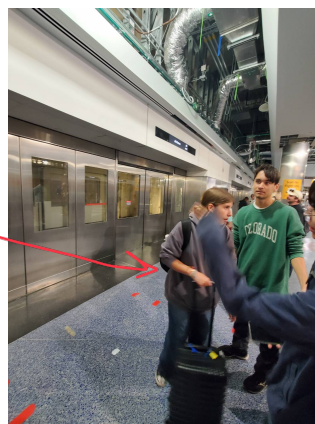
一番人数が多かったのはイタリアの留学生です。イタリアの留学生は一番明るくてうるさいので、他の国の留学生はいつもやれやれ…というような呆れた表情をしていて面白かったです。アメリカにいる間、ピザを食べる機会がよくありましたが、彼らにとってはパスタやピザにケチャップはあり得ないそうで嘆いていました。イタリアに限らずどの国の留学生も明るく外交的でした。ある日は、女子達が宿泊棟の外で大音量で音楽をかけ始め突然クラブごっこを始めたので驚きました。日本人の私と里桜さんは建物の窓から見ていただけでした。

私は特に、ブラジルの留学生のルイーサと仲良くなりました。彼女はいつも落ち着いていて、優しかったです。帰国の日に一緒にデンバー空港に行きましたが、私を手助けしてくれて本当に頼りになりました。

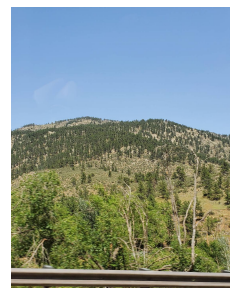
絶景なオジャラ家の庭で集合写真



見えにくい写真ですがルイーサです

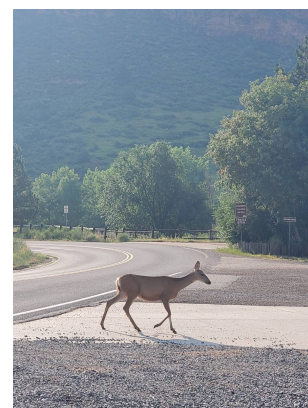
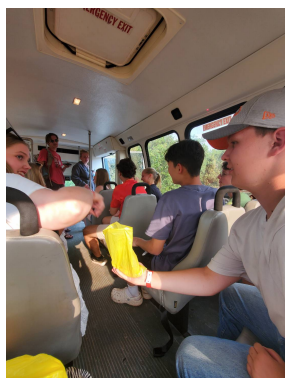


バトモク



終わりに

始めと同じにはなりますが、コロラドで非常に充実した時間を過ごすことができました。帰国の際、デンバー空港にQuinnとJennyさんが来てくれて、別れる最後の最後まで手を振ってくれて嬉しかったです。別れる際には泣きませんでした。デンバー空港から離陸する瞬間、私は感極まって泣いてしまいました。私に沢山の思いやりを持って接し、色々な所に連れて行ってくれたオジャラさんには感謝しかありません。帰国し羽田空港に着くと父が出迎えてくれましたが、その時は日本にいるという実感がなかなか湧きませんでした。また、アメリカはとても広かった所以ってきてすぐの頃は、地元も東京も狭く感じてしまいました。少し海外に行くだけでも、今まであまり意識していなかった色々なことに気づくことができました。とても良い留学になりました。ありがとうございました。



お別れ... 〽

